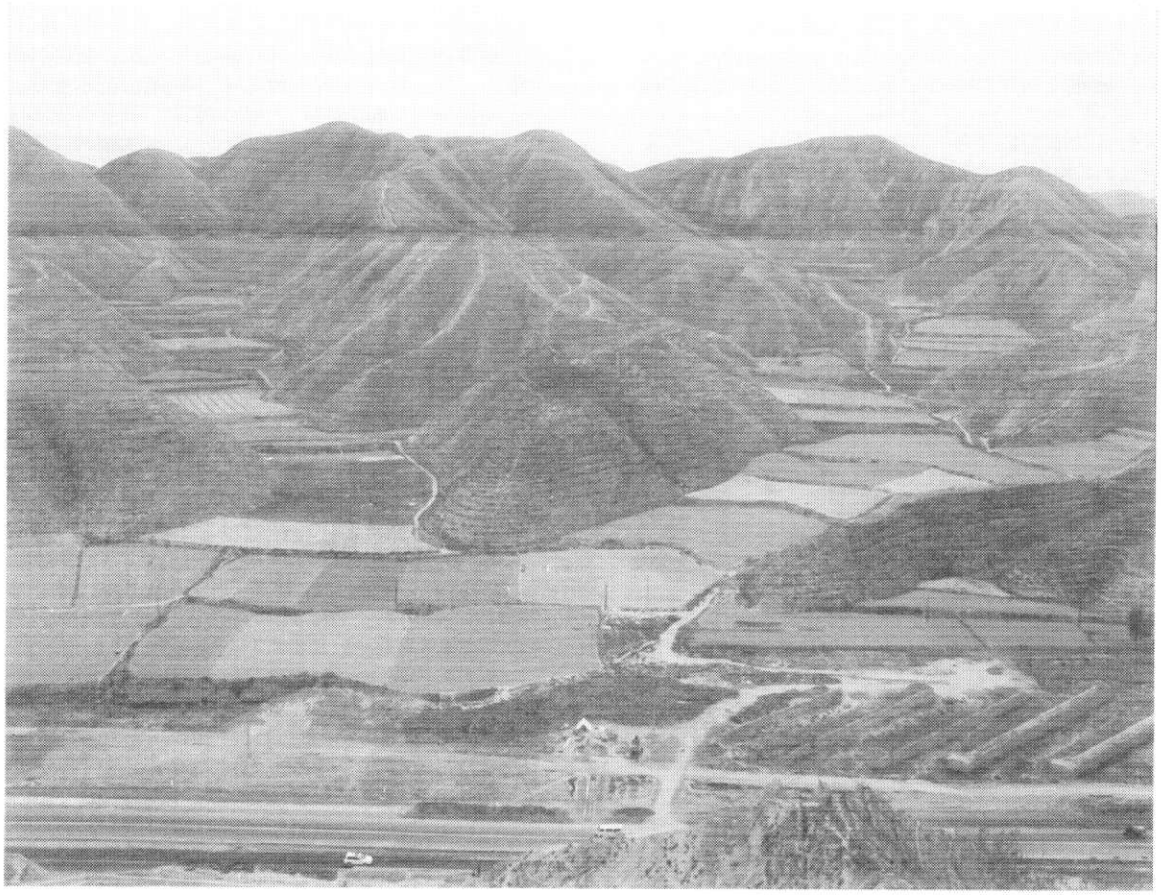
2003
vol.1
APL

# 黄河の森
# ＫＦＧ

発　行／黄河の森緑化ネットワーク
代　表／林　同春
編集責任者／ＫＦＧ事務局長 林　青彦
問合わせ先／・石　嘉成
TEL. 078-621-2001
FAX. 078-621-2002
・勝亦すゑ子
さくらキンダーガーデン内
TEL・FAX. 078-967-1072
郵便振替／00930-0-186105
黄河の森緑化ネットワーク



「ひたすら美しい情景」

撮影　辻　恵子

ああ　あの大河　太古より　流れる誇り
ああ　その緑　永久に　たやさぬ心
燃えたつ生命　ここに　ここに

CONTENTS

P.2　黄河の森緑化ネットワーク発足にあたって
P.2　緑化南北山、保护母亲河
P.3　黄土高原との関わり
P.3　ワーキングツアーの思い出
P.4　ＫＦＧ活動について
P.4　ワーキングツアーのご案内
イメージワード　畑中弘子（児童文学者）

# 黄河の緑化ネットワーク発足にあたって

## 地球に緑を！

黄河の森緑化ネットワーク（ＫＦＧ）
代表　林　　同　春
（神戸華僑総会名誉会長）
（兵庫県外国人学校協議会会長）

“地球に緑を！”と、砂漠地の黄土高原の緑化事業に取り組む「中日友好記念林」の会を立ち上げるに際しまして、この会の主旨にご賛同頂き、勇躍参加して下さいました会員各位に深く敬意を表します。

日本は、何処にも緑の山があり、豊かな森林があります。そして、人々は春には美しい桜花、秋に紅葉のもみじをめで、その上、優雅な句節に春の七草に加え、秋の七草の緑の中に暮らしています。

一方、大自然の環境により、地球上には砂漠地などのように緑に恵まれないところが沢山あります。その上、この半世紀の急速な工業の近代化により、地球温暖化・オゾン層の破壊・森林破壊・砂漠化など、地球をめぐる環境は極めて深刻な状況に置かれています。

現代に生きる人間として、地球環境の保全・改善は人類史的な課題であり、次の世代に対して大きな責任があります。こう言う状況の中、少しでも地球の環境保全の手助けができればと考え、「中日友好記念林」の会を立ち上げました。

砂漠地の黄土高原を緑化するために、苗木の購入資金を集め、又、現地で汗を流して、荒地に苗木を植える会員各位の崇高な奉仕精神に、今一度深く敬意を表します。

おわりに、“地球に緑を！”の奉仕精神で集まった会員各位のご健勝を祈り、同じ目的の下に集まった会員間の友好の輪が広がり、ひいては中国と日本の友好が一層深まることを祈念いたします。

## 緑化南北山、保护母亲河

蘭州市南北両山緑化工程指揮部
副指揮　馬　　金　山

皆さんこんにちは！大地が春の気配を感じ、万物が目覚める素晴らしい時期を迎えるにあたり、蘭州市南北環境緑化工程指揮部を代表し心よりお喜び申し上げます！また、黄河の森・緑化ネットワーク様の蘭州市緑化事業への多大なるご支持について深く敬意を表するとともに心よりの感謝を申し上げます。

蘭州市はわが国黄河上流において重要な工業都市で、甘粛省の政治、経済及び文化の中心です。また中国西北地区において交通と通信の要衝で、現在政府が進めている西部大開発政策において大変重要な位置と影響をもたらしております。歴史上、蘭州市は南北両山に抱かれた黄河上流においての西北の名城で、シルクロードの輝ける真珠でした。司馬光は《資治通》の中で盛唐時代の甘粛を“間閣相望、桑麻翳野、天下称富庶者無出隴右”（村の門から望めば、緑が大地をおおい、裕福な人達は甘粛のこの地を出る者はいない）と表した。また古い文献には、宋・元の時代蘭州地区は森林が生い茂り、風光明媚な所だと記載されております。しかし、その後戦乱や自然災害、人的要因で破壊が進み、蘭州地区は荒涼とした山並みが続く、水や土が流出した、生態系がすこぶる脆弱な土地となってしまい、環境問題が非常に突出した問題となり、蘭州市経済発展を妨げる最大の原因となった。植樹造林事業は、蘭州の緑化は母なる川の保護に、蘭州の生態環境の改善に、また蘭州の経済を発展し続けさせる為に必要な事業であり、それは何代もの蘭州人の宿望と共同の心の叫びでした。

新中国建国以来、歴代の省・市政府は南北蘭山の緑化に向け蘭州人民を指導し、自分たちの庭の美化に向け惜しみない努力と過酷な奮闘を行なってきた。20世紀の50年代の時には、蘭州人民は水桶を肩に担いで山に登り植樹を行った。80年代に入り、蘭州人民は一致協力し、奮闘努力し、18年の歳月をかけ、25,000㎡の禿山を緑化し、3,000万株以上の樹木を植樹した。中国国務院の朱鎔基総理は蘭州市の生態環境問題に大変関心を示し、生態環境の保護と建設を強化することは、蘭州市と甘粛省は当然として、しいては西北地区及び全国への重大なる現実的並びに歴史的意義を及ぼすと表明した。1999年10月朱鎔基総理が甘粛省を視察されたさい、蘭州南北両山において何十年来の植林緑化事業の成果について高い肯定と賞賛を贈られた。これは蘭州人民をさらに鼓舞し、新たに“南北両山を緑化し、美しい山河を再生させよう”という生態環境建設スローガンを発した。2000年からは、中央政府及び省、市政府の重視と指導のもと、また社会各界の関心と支持のもと、蘭州市南北両山環境緑化工程指揮部は３年の苦難と弛まない努力の結果、59,400㎡の植林緑化任務を完成させ、国の竣工検収に合格いたしました。南北両山緑化工程は緑化事業本来の価値を追い越し、蘭州市の生態建設と経済、社会の発展に多大なる影響を及ぼすことになった。

南北両山緑化、生態建設は蘭州市の長期的な戦略プロジェクトです、それは複雑で大変困難なシステムプロジェクトです、それは全社会の支持と参加が必要で、さらに広範囲にわたる注目と協力が不可欠です。昨年10月、在日華僑と日本の友人が共同で組織した「黄河の森・緑化ネットワーク」国際緑化ボランティアが蘭州市を訪れました。そこで私達の部と“中日友好林”の建設に関する協議書を交わし、友好林建設に対し無償の援助を提供していただくことになり、また訪中団メンバー全員がご自分の手で自ら“友好樹”を植林されました。これは我々蘭州両山緑化事業に対しての熱烈なる支持とボランティア精神の表れで、在日華僑の祖国への思いを充分に物語り、中日両国人民が日々益々友好の絆を深め、中日両国経済、文化及び民間交流がさらに発展していることを表しています。ここで、私は蘭州市南北両山環境緑化工程指揮部を代表いたしまして、両山緑化建設について感心を持ち、支持し又建設に参加していただいている在日華僑と日本の友人に対し心より感謝を申し上げます！また同時に、今後さらに多くの在日華僑及び日本の友人の方達が蘭州に観光に来て頂き、私達の南北両山に来て“中日友好林”で植樹活動をする事を希望いたします。“中日友好林”の建設協議書は我々の植樹事業が＜緑化と都市の協調＞という問題の原則であり、生態効率を堅持し、社会公益を主たる原則とし、現実に立って出発し、現場を重んじ、適地適樹を原則とし、水利・造林及び管理保護の各項目を真剣に考えて建設していきます。私は双方の友好合作と相互信頼を通じ、共同で“中日友好林”というこの《功は現代にもたらし、利は千秋に続く》公益事業が必ず成功することを堅く信じます。

（翻訳：金　啓功）

# 黄土高原との関わり

ＫＦＧ顧問　徳　岡　正　三
（高知大学農学部森林科学科教授、農学博士）

この度顧問という役回りで参画させていただくことになりました高知大学農学部森林科学科の徳岡と申します。

私と中国のかかわりは1988年に内蒙古自治区に広がる砂漠化土地の調査に加わったのが始まりです。以来、東は内蒙古のハイラールから西は新疆ウイグル自治区のアラシャンコウまで、点と線の上を通過したに過ぎませんが、中国北方の東から西まで一通り足をのばすことができました。この間には半年間陝西省の西安外国語大学で日本語を教えるという機会にも恵まれ、中国の若者の考えなども少しですが知ることができました。こうした経験を通じ、広大な中国国土の約半分が乾燥して荒れた土地であり、これが農牧業だけでなく都市生活にも影響を及ぼし、人々が土地の改善に苦慮している状況を知りました。

荒地には砂漠とかゴビとかいろいろあります。これから緑化に取り組もうとしている蘭州のかの地は黄土高原の西の端に位置し、水土流失が激しい荒れ地といえます。水土流失というのは、たまに降る雨が土にしみこまず一気に流れ去り、このとき表層の土砂を一緒に大量に持ち去り、跡には養水分がないむき出しの地表が残ることをいいます。水土流失によって土地の生産力は低下し、河が黄色に濁ります。

長い歴氏の中でいろいろあって現在水土流失を起している土地が中国では367万㎢（中国国土の約38%、日本国土の約10倍）もあると報じられています。黄土高原では耕して天に至る段々畑がみられますが、こうした農耕が水土流失の一つの原因となります。そこで、まずは急傾斜地の農耕を止め、そこを樹林や草原に変えようという政策が実施されています。いまでこそ黄土高原には広大な荒れ地が広がっていますが、昔は多くの地域が豊かな樹林や草原であったといわれています。以前の緑多い土地にもどそうということで、この政策を「退耕還林」（耕作を止めて林に還す）とか、「退耕還草」（耕作を止めて草原に還す）といいます。

水土流失を防ぐには地表をできるだけ植物で覆うのが何よりです。栽培途中の農地は農作物があるからまだましとしても、収穫後にそこが裸地になり水土流失に対していわば無防備になります。樹林や草原とし、そうした植生を壊すことなく持続的に利用できれば水土流失を大幅に防ぐことができます。我々の蘭州での取り組みは、植林によって水土流失を防ぐべく活動されている地元に少しでもお役に立つことと理解しています。いろいろ紆余曲折があるかもしれませんが、「黄河」が「青河」となった夢だけでもみたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

# ワーキングツアーの思い出

玉　手　敦　子（高槻市職員）

さぁ！いよいよ出発。蘭州市日中友好記念林緑化ワーキングツアーの始まり、始まりです。昨年、始めて参加し今年は、二度目の中国旅行になるので、楽しみである方が大きかったですが、やっぱりドキドキしていました。いざ関西空港から上海空港へ、そこから国内線に乗り換えて蘭州空港へ。蘭州空港へは予定通りに到着。外は真っ暗になっていて、星が綺麗に真近くに見えていました。ちらほら明るい光がバスの窓から見えていました。そしてホテルに到着。その日はそのまま布団へ直行、おやすみなさい。

翌日、蘭州市との調印という大切な日。蘭州市政府に表敬訪問。いよいよ本格的な緑化活動の始まりです。向かい合わせに座って、活動内容についての質疑応答。金さんの通訳によって、なんとか理解することが出来ました。その他、地図を使って緑化地域を説明して戴いたり、ビデオによる蘭州市の紹介。会議はスムーズに進み、調印する運びとなりました。そして、いざ植樹へ出発！バスに乗って現地に向います。植樹する場所に到着した時私は「やったぁ～！」と思わず心の中で叫ぶと同時に顔も綻んでいました。

３日目は、朝早くにホテルを出発して、いざ敦煌へ！映画でも有名になった敦煌。どんな街なのかと胸をわくわくさせながらの旅です。映画のセットが残る敦煌の古城。茶店かせあったり、馬小屋があったり、お肉や野菜を焼いてあるセットがそのまま保存されていました。次ぎは、漢代の関所陽関に、鳴沙山・月牙泉。ここはまさしく砂漠。歩く度に足が砂に埋まってしまうし、ほこりぽかったです。でも、ここではらくだに乗って楽をして月牙泉まで移動。生まれて初めてらくだに乗りました。記念にと、らくだと一緒に写真を撮りました。月牙泉では三明形の泉があり、この泉は場所や角度によって砂漠の色が水に映って黄色くなったり、水草の色が映って青色になったりと、とても不思議なそして綺麗な泉でした。敦煌市内を得て、ホテルに到着。

４日目は、あの有名な莫高屈の見学。どれもこれも色鮮やかに残っていました。じぃーっと見ていると、その時代の中に吸い込まれていくような幻想の世界でした。その夜は、ホテルの近くにある沙州市場へ。見る物全てが物珍しくて見入っていました。敦煌の日常生活の様子を垣間見る事が出来たように思いました。

５日目は、嘉山谷関と酒泉の見学。普通のツアーではなかなか行けない場所の見学。とっても得をしたような気分でした。その夜寝台車に乗って蘭州へ。初めて乗った寝台車！良い経験になりました。そして早朝蘭州に到着！昨年と違いとっても大きくてりっぱな駅になっていました。一年違うだけでこれ程になっているとは、びっくりでした。

五泉山公園を見学して、黄河を遊覧。水の色はどこまでも黄色かったですが、周りの景色はとても綺麗でした。それから甘粛省博物館の見学。馬踏飛燕は、なかなか素敵で精巧に造られていました。

７日目は上海へ。昼食を食べた後に見学した豫園はりっぱなお庭であり、りっぱな建物であり、置いてある椅子をはじめとするあらゆる家具の細工がとても見事でした。

８日目、いよいよ日本へ戻る日。長いようであっという間に終わってしまった今回のツアー。名残り惜しいような早く日本へ帰りたいような。来年も又来るぞぉーっと思い乍ら、飛行機に乗りました。だんだん日本に近づいてきて日本の上空を飛んでいる時、なんと緑の多い、そして色とりどりの景色なんだろうと。中国の上空を飛んでいる時に見ていた景色とのあまりの違いに驚きました。この景色は大切にしていかないと、自然は守っていかないと、と改めて感じました。

# ＫＦＧの活動について

## “小さな一歩から始めよう”

ＫＦＧ事務局長　　林　青彦
（神戸華僑総会副会長、一級建築士）

黄河の森緑化ネットワーク（ＫＦＧ）は昨年10月正式に発足しました。２年間の準備と２度のワーキングツアーを経て、ここまで辿りつけたのは、世話人一同の努力によるものです。中国の言葉に“八仙渡海、各顕其能”があります。各人とも極めて多忙の中、それぞれの役割を発揮し、協働してつくりあげたものです。

地球環境悪化は危機的状況にあり、環境問題に対する関心は日増しに高くなっています。中国においても植林ボランティア団体がたくさん活躍されています。このＫＦＧも2003年正月早々、新聞に紹介され、現在の会員は120名位になりました。甘粛省蘭州市にあるフィールド・日中友好林の規模は決して大きくはありません。すぐに地球環境改善につながることにはなりません。３月15日より京都・大阪・滋賀で世界水フォーラムが開かれました。水・土・大気・生態系と人類の生命線がことごとく危機状況にあります。身近な環境悪化がじわっと迫り、こういう状況にあって、自分が生きている間は大丈夫だと言う傍観的な無責任さはもう通用しなくなってきます。せっせと苦労して孫に財産を残そうとしても、環境悪化のスピードの方が早く、孫への思いやりも徒労に終わってしまうかもしれない。日本の愛唱歌“故郷”は非常に愛され、口ずさめば感動をよぶ何かがある。それは失いかけている里山、自然風景に他ならない。今、一人ひとりが何らかの行動をとれば、この故郷をとりもどすことも可能であるのではないだろうか。

ＫＦＧは地球環境保護・改善ネットワークに連携して、環を広げたいと考えています。日中友好林(約60ha)を５年間かけて緑化協力を行い、そして緑化地域を広げていくつもりです。木が育つのは10年、20年とかかります。一人ひとり、代から代へと根気よく着実に続けていくしかありません。毎年日中友好林へのワーキングツアーは、ただ一方的な緑化支援ではなく、一日でもよいから植樹している現地の人達と一緒に汗をかき、人的交流を大事にしたいとの考えです。人と人とのつながり、相手を思いやるエコーマインドは地球環境問題の基本だと考えています。人間中心、開発優先主義の傲慢さ、自然をねじふせようとした結果が、今日の地球環境悪化をつくっています。多種多様な生物があっての人間であることの原点を知り、“人”という字にもあるように、他人あっての自分、お互い支えあってこそ人間でである。人間社会が限りなく急速に発展すること自体が環境破壊に結びつけ矛盾。物の豊かさ、便利さに慣れてしまった現代人は、ひと昔に逆もどりすることは困難です。しかし環境破壊は確実に進んでいます。スピードがつけば加速度的に進行するだけなのです。私達に何が出来るのか。地球自身がもう耐え切れないとのシグナルを受けとることが肝真です。自分の小さなゴミはポケットに入れるかゴミ箱に入れる。何の負担もいらない。無意識に土に流した汚染物質類は流れて行く先は川か地下水です。その水を私達が飲むことになる。室温を１℃上げれば、どれだけの石油を使うことになるのか。その化石燃料も枯渇してしまう。

2002年８月ヨハネスブルグで環境と開発サミットが開かれました。環境と開発を対立軸でなく、両立できる持続可能な社会を今後何らかの方策で構築する努力が求められ、国や企業だけが努力するのではなく、市民一人ひとりが意識改革やライフスタイルを見直す努力から始めるべきではないか。身近にできる小さな努力から始めるしかないのです。とにかく地球環境をめぐる悪化のスピードを落とすことです。ＫＦＧの活動はその小さな一歩にすぎない。池に投げ入れた小石も流紋となって広がっていく。地球環境に対する関心そして実践の環が広まることがＫＦＧの役割でもあります。

会報発行がやっと皆様に届けることができました。会報作りにあたっても、八仙渡海、各顕其能方式です。色んな職種の世話人が手探りで編集致しました。春・秋２回発行を目指す予定です。会報を通じてネットワークの交流、環境問題に関する各種のセミナー、フォーラムなどの紹介、会員からのメッセージなどの内容を考えています。ＫＦＧが10月に発足して半年になるのに、どうなっているのかとご心配、ご不満があったと思います。遅くなりましたことご容赦下さい。これを機会に、ＫＦＧ活動に対しご理解ご賛同を頂き、環が広がるようご協力をお願い致します。

### 2003年、秋の黄土高原ワーキングツアーへのお誘い

## 黄河の森・緑化ネットワーク
## 蘭州市中日友好記念林植樹ワーキングツアー

☆概算ご旅行代金　　¥187,000 / お一人様
　　お一人部屋追加代金 / ¥42,000
　　中国渡航査証ビザ代金 / ¥ 4,600

☆日程 10月４日～10月12日
　　10月５日「日中友好林」で植樹を行い、ウルムチ、トルファンを巡るツアーです。
　　これを機会に緑化協力の体験をしてみませんか。

☆お問合せ先 ㈱神戸華聯旅行社　　担当：金　啓功
　　☎ 078-391-5185

MADO CHUANG

ある電話のベルが鳴りました。それは２年前の暑い夏のことです。中国のシルクロードに行きませんかという。私はシルクロードという響きに夢をはせた、それがこのグループに関わることになる始まりだった。今という時代「環境」について誰もが漠然とではあるけれど、心のどこかでなんとかしなければと思い始めている時だと思います。その漠然とした不安を“黄河のほとりに木を植える”という夢を形にしたActionに変えたいものです。遠い過去の時を越え、はるかな西域空間をこえて、共に旅をしましょう。21世紀の世界市民として。
誰かの心に届く電話のベルを鳴らしてみましょう。

小舟　史代（主婦）